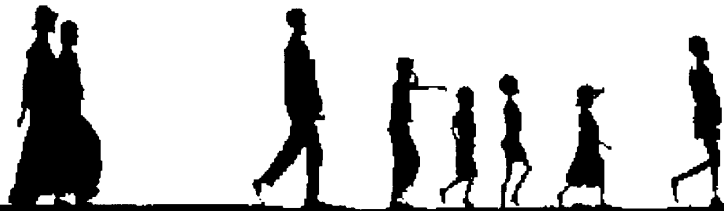


図書館通信

静岡大学附属図書館報

No. 151



2005.7

- 「読書」という技術
- 図書館利用セミナー実施報告
- シリーズ“!”第18回 GeNii、CiNiiってなに?!
- 平成16年度図書館利用統計
- 図書館イベント報告
- 図書館の動き
- 図書館からのお知らせ

「読書」という技術



附属図書館浜松分館長 雨宮正彦

「読書」はいまや、特殊な技術になりつつある。だれもができるというわけではない。

若者の書籍離れが喧伝されて久しい。かりに20年前からそう言われているとすると、当時20代だった青年層は現在40代になる。若者ばかりでなく、壮年層さえ最近では本を読まなくなってしまったことも「むべなるかな」と首肯できる。本を手にしなにかれらは、TV放送、ビデオ(いまはDVD)、コンピュータ・ゲームなどの映像メディアに熱中している。

そんな時代に育ったいまの学生諸君も、多くは中学、高校時代に読書する経験ないし訓練をしてきていないため、本を読む習慣を持っていない。新聞を毎日きちんと読むことさえしないのだから、読書の習性がないのは当然かも知れない。「そんなことではより確実な知識を身に

付けることが出来ないよ」と学生に注意すると「いえ、情報はTVやインターネットから得ていますから」という答えが返ってくる。

かくして本を「読まない」学生が静岡大学に溢れ返っている(ように見える)。これはもちろん、静大に限ったことではなく、東京のある有名私大に勤務する友人も同じ現象を嘆いていた。「読書しない学生」……。私には自己矛盾的現象としか見えないが、これは疑いようもない事実なのだ。

1995年10月、私は静岡大学から招聘されて、創設されたばかりの情報学部の教員になった。当初は大谷キャンパスに研究室を持ち、全学部の学生を相手に共通教育を受け持った。授業をし、レポートを書かせ、試験を実施して気が付いたことは、学生たちの知識と「思考能力」の

低さ、「表現能力」の幼稚なことであった。

28年余り新聞社で科学記者として活動してきた私は、卒業以来久しぶりの「大学生活」に大きな期待を持っていたが、現実とのあまりの落差に驚き、幻滅感さえ抱いた。(もちろんどの学部にも、少数ながら、知識、思考・表現能力に優れた学生はいた。その事実を、それら優秀な学生諸君の名誉のために付言しておかなければならない。)

多くの学生はなぜこれほど思考する力や表現するわざが低いのか。この疑問に対する解答は、学生たちとの会話の中から得ることが出来た。

「彼らはほとんど、あるいは全く本を読んでいる」……このことだった。

読書は、単に「より確実な知識を得る」ためだけのものではない。読書している間、または読書後、われわれはいろいろなレベルの知識を意識、無意識のうちに運用している。これが「考える」という行動である。読書には「思考」活動を活発化させる作用が自ずと内蔵されているのだ。[註1]

これに対して映像メディアにはこの作用がない。TV放送やコンピュータ・ゲームは瞬間的に画面がクルクル変化し、それに対する反応も“無条件反射”的にならざるを得ない。つまり、映像を見聞きしている際には、「考える」といえないのだ。従って、映像メディアばかりに囲まれて育った者は、考える訓練をまるでしていないことになる。

これでは、大学を卒業して社会に出ても、満足な仕事が出来ないのではないか。[註2] そんな危機感から、私は読書と文章表現を通して思考・表現能力を鍛える自主ゼミを始めた。開塾当初、学生たちは課題書の中味を把握することもおぼつかなかった。著者の論理展開や主張についていけなかったのだ。彼らは読書の技術を身に付けていなかった、と断言できる。

しかし半年も訓練を積むと、彼らの文章表現は誰の目にも明らかなほど上達してきた。これは、単に文章表現がうまくなっただけでなく、

本を「読み込む」力が身に付いて来たことを示している。短期間のうちに上げた予想外の成果に、私はビックリし、すっかり嬉しくなってしまった。自主ゼミに集まった学生たちはみな、「文章をうまく書けるようになりたい」と願う者ばかりだったから、という理由はあるにせよ、私は自分の訓練法と、それに懸命に応える静大生の潜在能力に確信を持った。要するに、それまでの教育にはこうした知的訓練が欠けており、彼らの潜在能力を自ら引き出すことが出来なかっただけなのだ。

この自主ゼミは現在も続けている。最近では希望者も増え、選抜試験を課さねばならなくなっていることが心苦しい。しかし、参加学生は確実に「読書の技術」を身に付け、「考える」能力と「表現」能力を向上させている。

字が読めれば、読書できるわけではない。数多く本を読み、それを習慣化しつつ知的訓練を積む。それでこそ「読書」できるようになるのだ。その結果「考える力」と「表現する力」を鍛えることになる。読書の必要性は、教育者のだれもが口にする。しかし、いまの大学教育にはその十分な実践がほとんど見られず、成果も上がっていないように思える。

「読書」という知的訓練なしには、どんな学問・研究もあり得ない。学生諸君にはそのことを強く胸に刻んでもらいたい。そして附属図書館を大いに活用して読書の技術を身に付け、「考える力」と「表現する力」を鍛えて欲しいと心から願う。

[註1] 雨宮正彦『「考えないヒト」への進化』『言語』第28巻第3号(1999年3月号)

※静岡 3F外国雑誌室

※浜松 閉架雑誌

[註2] 「仕事」と「労働」の違いについては、例えばハンナ・アレント『人間の条件』を見よ。

※静岡 開架文庫 [311/A68/B]

※浜松 文庫新書コーナー [080/C44/A68]

平成17年度附属図書館利用セミナー報告

今年度も4月から6月前半にかけて新入生セミナーの1コマとして附属図書館利用セミナーを実施し(本館47回、分館33回)、新入生のほぼ全員に早い時期に図書館に足を運んでもらうことができました。セミナーを通して図書館の基本的な利用法を知ってもらうとともに、学業や教養において図書館を積極的に利用してもらうためのきっかけになればと思います。

セミナーの内容は次のとおりです。

本館	分館
館内案内	図書館の概要説明
静大蔵書検索	館内ツアー
学外蔵書検索	蔵書検索システムの説明と実習
データベースの紹介	図書館でできること
書庫内ツアー	(図書館サービス、データベース等の紹介)

検索実習では、OPAC等の検索方法をマスターしてもらうために、図書館職員3～4名が学生たちの検索補助を行いました。担当の先生が検索補助に加わっていただける場合もあり、学生たちも熱心に検索例題に取り組む姿がみられました。

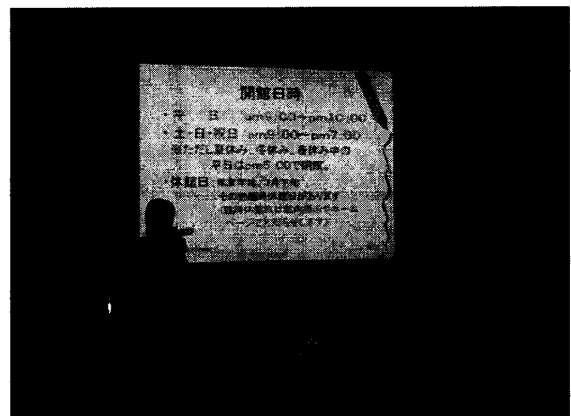
また館内ツアー、書庫内ツアーでは実際に資料や設備を見ながら説明を受けることで、図書館に対する具体的なイメージを持つことができたのではと思います。

セミナー後のアンケートでは、図書館の利用方法が良く分かった、これから積極的に利用していきたいといった意見が多くある一方で、もっと早い時期に実施してほしい、検索実習時間が短いなどの意見もありました。またある教官からは、「例えば、レポートの課題で図書館を利用するように促すなど、セミナー後のフォローアップを担当教官が意識的に行うことが必要だ。」といった図書館と教官との連携の大切さを強調する意見もありました。来年はこれらの意見を活かしつつより充実したセミナーをめざしたいと思います。

本館 (検索実習)



分館 (概要説明)



シリーズ “!” 第18回

GeNii、CiNiiってなに?!

今回は4月1日より始まった新しい学術コンテンツポータルGeNii (ジーニィ) と、その中の論文情報索引データベースCiNii (サイニィ) の紹介をします。

附属図書館HP→●電子情報のデータベース→学内で利用できる主要なデータベースのGeNii (NII学術コンテンツポータル) をクリック

GeNii (学術コンテンツポータル) は、論文情報や図書情報を入力するための各サービスを提供する総合検索窓口です。

ここにキーワードを入力すると複数のデータベースをまとめて検索できます。

論文検索CiNiiはこちらから

☆CiNii(論文検索)の検索方法

① 簡易検索欄: 表示件数: [25] 表示順: [出版年(新しい順)] 検索 クリア

② 情報処理欄: 検索対象: [著者名] [AND] [論文名] [AND] [雑誌名] [AND] [ISSN] 検索 クリア

③ ナビゲーションメニュー:

- ディレクトリ
- SCI/SSCI/A&HCI
- CiNii+SCI/SSCI/A&HCI

① 簡易検索…論文名、著者名、雑誌名、巻号など何からでも検索可。キーワードを複数入力するとき、スペースで区切るとAND検索になります。

例) 「情報処理」「デジタル図書館プロジェクト」「安達淳」を検索するとき
 情報処理△デジタル図書館プロジェクト△安達淳 と入力する (△はスペース)。

- ② 詳細検索…キーワードの項目や出版された範囲（出版年、巻号など）を指定して検索が可能。複数入力するときはAND検索とOR検索を選ぶことができます。

例) 著者名に「安達淳」、論文名に「情報検索」または「プロジェクト」を含み、出版年が「1995年～2003年」の範囲のデータを検索する場合

詳細検索

表示件数: 表示順:

検索対象	検索語	検索語の組合せ
著者名	<input type="text"/>	すべて含む
AND <input type="text"/> 論文名	<input type="text"/>	どれか含む
AND <input type="text"/> 雑誌名	<input type="text"/>	すべて含む
AND <input type="text"/> ISSN	<input type="text"/>	すべて含む

▲ エリアの追加

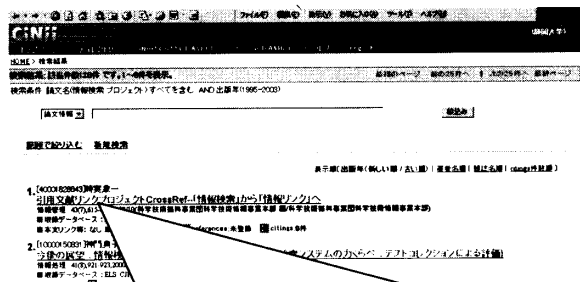
検索対象	FROM	TO
AND <input type="text"/> 出版年	<input type="text"/>	<input type="text"/>
AND <input type="text"/> 巻	<input type="text"/>	<input type="text"/>

▲ エリアの追加

- ③ ディレクトリ…ここからCiNiiで本文を見ることができる国内学協会誌、研究紀要等の掲載論文について、雑誌名、巻号をもとに探すことができます。

SCI/SSCI/A&HCI, CiNii+SCI/SSCI/A&HCI…Citation IndexもCiNiiから一部有料(※)利用できます。(書誌詳細を表示する毎に(1論文毎に)課金されます)。詳細はウェブページ上の、論文の探し方ガイド：SCI/SSCI/A&HCIについて をご覧ください。

☆検索結果一覧



④ ここで絞り込み検索ができます。範囲(出版年、巻等)での絞り込みも可能。

[40001828843]時実,象一
引用文献リンクプロジェクトCrossRef--「情報検」から「情報リンク」へ
 情報管理 43(7), 615-624, 2000/10(科学技術振興事業団科学技術情報事業本部 編/科学技術振興事業団科学技術情報事業本部)
 ■ 収録データベース : NDL
 ■ 本文リンク等: あり ■ 文献書誌・引用情報 references : 9件 citings : 1件

「 本文リンク等 : あり」の場合は論文本体を見ることができます (一部有料※)。
 「 references : ○件」はその文献が引用している文献の件数を表しています。「 citings : ○件」はその文献を引用している文献の件数を表します。クリックするとそれらが一覧で表示され、さらにクリックして詳細をみるすることができます。

※サイトライセンス個人ID取得のご案内
 データベースGeNiiは静岡大学として機関登録をしていますので、機関別定額制で許可されたコンテンツを無料で見られます。また無料でサイトライセンス個人IDを取得することができます。IDを取得すると自宅からでもCiNiiができるようになります (SCI/SSCI/A&HCI等を除く)。また有料コンテンツを従量制利用料金を支払うことで利用できるようになります。CiNiiトップページの新規登録からIDの取得ができます。

創立記念日に図書館一般公開イベント「のぞいてみよう大学の図書館」を開催

附属図書館本館では、平成17年度の創立記念日にあたる6月1日(水)の午後に図書館一般公開のイベントを開催しました。

パート1は、大学会館ホールを会場とした「館長トーク：有度山麓の戦国時代－小鹿・大谷・片山－」で、中世日本史を専門とする小和田哲男附属図書館長(教育学部教授)から静岡大学静岡キャンパスのある地元地域に関わる武家の興隆や事跡について紹介がありました。

パート2は、同じホールで、附属図書館(本館)の施設や利用方法についての案内説明を行いました。

パート3は、会場を附属図書館に移して、閲覧室の自由見学と、定員制での「書庫内ツアー」及び「パソコンで本をさがそう」(資料検索の説明と実習)を行いました。

また、閲覧室では、漫画家の漆畑博義(うるし・ひろ)氏作の「絵巻 遥かなる子供たち」(昭和20年代の近隣農村の子供たちが描かれている)を併せて展示しました。

今回の企画は、授業の行なわれない1日を活用して図書館の地域開放をPRするものでしたが、地元にもふさわしい内容、地元密着をめざした形の案内広報を実施して、100名を超える規模の行事となり好評でした。



図書館の動き

◆会 議

平成17年度東海地区国立大学図書館協会総会

(平成17年4月22日(金) 於：名古屋工業大学)

附属図書館長、学術情報部長、情報管理課長、情報サービス課長が出席。

国立大学図書館協会関係諸会議、科学技術・学術審議会における学術基盤作業部会の役割・審議状況、事務系職員(図書業務)採用試験、名古屋大学電子図書館国際会議(IADLC)、電子ブック(NetLibrary)の加盟館における利用、「東南海・南海地震シンポジウム」、平成16年度東海地区協会活動状況等の報告があった。

引き続き、会長館の選出、平成17年度国立大学図書館協会監事候補館の推薦、NACSIS-CAT/ILLの課題解決、国立大学図書館協会での研修企画、大学図書館と地域の公共図書館との連携のあり方、海外出版社からの洋書購入、研究室等所蔵の図書館資料の管理について、また、文部科学大臣に対して特に要望すべき事項について、さらに、平成17年度国立大学図書館協会総会の準備・協力及び同協会総会・ワークショップのテーマについて、活発な協議が行われた。

平成17年度第1回静岡大学附属図書館委員会

平成17年4月27日(水)

○審議事項

1. 附属図書館関連委員会
2. 特殊コレクションワーキンググループの設置

○報告事項

1. 平成17年度創立記念日における静岡大学附属図書館の公開イベント(案)
2. 平成16年度附属図書館モニター会議(第2回)
3. 平成17年度附属図書館利用セミナー
4. その他
 - (1) 電子ジャーナル及び2次資料データベースの利用統計
 - (2) その他

◆人事異動

平成17年3月31日付け

藤森 末雄(学術情報部長→岡山大学学術情報部長)

畠山百合子(図書館専門員) <退職>

武田 純一(情報サービス係) <退職>

佐藤 和慧(図書情報係長) <辞職>

平成17年4月1日付け

千葉 清人 (佐賀大学学術研究協力部長→
学術情報部長)

荃田美保子 (浜松医科大学学務部学術情報課
情報サービス係長→分館サービス係長)

<配置換等>

塚本 雅美 (レファレンス係長→図書館専門員)

山本 孝 (雑誌情報係長→図書情報係長)

近藤 久直 (雑誌情報係員→雑誌情報係長)

溜瀧 文子 (分館サービス係長→情報サービス係長)

藤田みよ子 (情報サービス係長→レファレンス係長)

杉山 智章 (図書情報係→雑誌情報係)

山川 玲子 (情報システム係→図書情報係)

<新規採用>

宮村由起子 (情報サービス係)

◆平成17年度附属図書館委員会委員

館長 小和田哲男
 浜松分館長 雨宮正彦
 人文学部 荒川 紘 渡邊昭成

教育学部

情報学部

理学部

工学部

農学部

理工学研究科

電子科学研究科

法務研究科

電子工学研究所

大学教育センター会議

学術情報部長

畑 俊明

林部敬吉

瓜谷眞裕

相田一夫

河岸洋和

藤原健智

高野 泰

藤原俊雄

松本晃一

半田智久

千葉清人

横山義昭

木崎暁子

東 直人

古谷士郎

田中 昭

◆平成17年度図書館通信編集委員

館長 小和田哲男
 情報学部(分館長) 雨宮正彦
 大学教育センター会議 半田智久
 (附属図書館) 塩川銀三 大石博昭
 小濱 進 小野華子
 山川玲子 杉山智章
 釜田香寿枝 松下昭重
 竹村寛子

開館日程〔2005年7月～9月〕

[共通]

7月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	
	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	
		19	20	21	22	
	25	26	27	28	29	

[静岡本館]

8月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	
	8	9	10	11	12	
	15					
	22	23	24	25	26	
	29	30				

9月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	
		20	21	22		
	26	27	28	29	30	

9:00～22:00

9:00～17:00

9:00～19:00

休館

※静岡本館8月20日は午後1時まで休館

※臨時の休館日は、別途お知らせします。

[浜松分館]

8月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	
	8	9	10	11	12	
	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	
	29	30				

9月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	
		20	21	22		
	26	27	28	29	30	

● 夏休みの長期貸出を実施します

平成17年7月16日(土)から平成17年9月20日(火)までに貸出した図書の返却期限日は、次のとおりです。 **平成17年10月4日(火)**

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第151号 (平成17年7月15日発行)

発行所 静岡大学附属図書館 URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

Tel.054-238-4477 Fax.054-238-5408 (再生紙使用)

